

令和2年度 西砂学習館運営協議会第8回（令和3年2月）会議録概要

日 時：令和3年2月14日（日）午後1時30分～4時30分

出 席：大橋 加藤 広瀬 進藤 森 増田 小笠原 長谷川 岩元 小林

事務局：石川 俣本

欠 席：なし

1. 開会のあいさつ

大橋：1月26日（火）の地運協と1月28日（木）の地域学校コーディネーターとの会議等が延期になりまして久しぶりに会議が開かれている状況です。2月10日（水）には第1回の西砂学習館まつり実行委員会が開催されました。動き始めようとしている段階になっています。コロナ禍の中で感染症対策を十分にしながらまつりを進めていくことが一番の中心課題になっている。5月の本番に向けて会議を進めていく運びとなっている。

緊急事態宣言も2月7日から3月7日まで1か月延びて宣言の状況下で会議等でも会場も広く取り感染症対策も気を付けながら進めていくことになる。若干感染者は減っているが、100名より減っているニュースを早く聞きたいと思うし、感染者が1人でも少なくなればいいと思っている。

昨日は十年前の東日本大震災の余震もありましたが、十年間も余震が続くと地球規模で考えればならない大変大きな問題と思う。十年前に揺れを感じた人たちは、昨日の揺れをどんな風に感じとったかと思う。

大変な状況で生活している人もいることを考えると見過ごせないこともあり、テレビで見たら体育館の広い場所が避難場所になっていて、コロナ対策でパーティション用のテントの様な物が設置されていた。一時避難をしている映像が映っていた部分もコロナ対策の一つと思って見させて頂きました。

石川：日中のお忙しい中お集り頂きましてありがとうございます。資料について確認をさせて頂きます。先ず今日の運営協議会の次第と資料1・2、西砂元気通信のカラー刷りのものと立川市地域学習館運営協議会の第5期の報告書と西砂学習館まつりの実行委員会が開かれ、次年度はまつりを行うことが決定致されましたことで、告知のポスターを作り館内等に貼っていきますので告知のポスターのチラシを一緒に付けてあります。もしもその中に不足がありましたらすぐにお持ちしますのでよろしくお願ひします。

2. 令和2年度地域活性化講座について

(1) 「にしすな夜間塾」〈第5弾〉について

石川：にしすな夜間塾第5弾は夜間に館が使用できずに中止になりました。コロナが落ち

着いたら夜間が使えるようになりますので、可能であれば年度内に行いたいと思っていますし、不可でしたら年度を越えて夜間塾を行いたいと思っています。

事務局案といたしましては大人も対象とした読み聞かせや出来れば静かに行うミニコンサート等や親子でダンス等のその場の使い方を考えています。良い提案がありましたら教えて頂ければと思います。よろしくお願いします。

大橋：2点に分けて審議をしていただければと思います。まず1点目は実施日ですが、緊急事態宣言下であったので2月19日の会は延期になります。石川係長が話をしました、年度内は今年の3月中の意味合いです。

緊急事態宣言がどのような形になるか分かりませんし、3月7日を目途に解除されるかもしれない。残りの期間の中で実施出来ればいいし、或いは講師選定のこともあるので実施出来なければ次年度の計画になる。今年度は1回のみの実施で、2回目は実施しない意味での年度での話になっている。

3月末までに行うことで小笠原委員はご意見ありますでしょうか。また、3月末までに開催となった場合児童館は部屋の貸出は出来そうですでしょうか。

小笠原：申し訳ありませんが児童館が3月21日の日曜日に子ども向けの行事を決めまして、準備が19日になります。当日2階は閉めています為19日は開催不可になります。26日は子ども達がすでに春休みに入っています。ここも6年生向けの行事を入れていますので、19日と26日は開催不可ですみません。必然的に金曜日となると12日しかないですのでかなり狭まってきます。

大橋：先ず児童館のご都合がありますので19日は大規模な企画の為の準備とのことで、26日は6年生向けの行事を入れていますので使用出来ません。第3・4金曜日は貸出不可になりますので、緊急事態宣言が7日で開ける可能性もありますので開催可能な日程は12日の金曜日になりますし、この日は部屋の貸出が出来ます。

12日開催で計画を進めていくかと進め方で緊急事態宣言が延長することになれば中止にせざる負えない判断になります。12日に向けての企画を1回行う。

石川：時間的にはかなり無理があります。延期ということよりも役所的には今年度は1回のみ開催で2回目は中止となります。

大橋：石川係長との話の中で5月末までのことを年度と考えるのか、学校と同じように3月末を年度として考える話は学校と同じと分かりました。4・5月をいつも何処が企画するのかと思っていました。3月末を年度とすると日程的にも講師の選定も難しいし、決定してもPRする日程的な部分も難しいです。今年度は講師をシューズフィッターの先生に来て頂いた1回のみとなりました。3月12日しか空いていない部分もありますので、小笠原委員にも色々ご協力頂きましたが、1回の形で大丈夫でしょうか。

小笠原：児童館としては大丈夫です。こちらの行事が重なってしまいすみません。

大橋：2回目については中止の形をお願いします。令和3年度の行事になっていくと思いま

す。石川係長から話があったようにどのような内容を行ったらよいかのアイデアはありますか。希望する内容を情報提供して頂けたらありがたいと思う。

石川係長からは大人を対象にした読み聞かせやミニコンサートや親子でダンススマホの使い方等のアイデアを頂きました。前に俣本さんからはスマホでの上手な写真の撮り方について教えて頂くこともあるかと思った。石川係長と相談しながら提案しようと進行している。

次回に時間をかけてこんな講座にしたいと話が出来たらとよいと思うし、次回に情報を持って来てくれたらありがたい。子育て世代の親御さんが希望する講座の情報を知れたら嬉しい。PTA全部に聞けないから情報を集めるとしたら運営委員会の時にアンケートを取って、配り聞いてみることも良いアイデアと思う。

結局子育て世代がいかなる講座を望んでいるかの生の意見を聞く場所がないし、何かを計画する時に一番生の声が上がってくると良いと思う。そのようなことを考えていければいいと思う。石川係長と相談して可能な方法があったら学校を通してPTAの運営委員会が開かれるところで意見を聞けたらいいなと思う。

小笠原委員は子育て世代の親御さんと接する機会が多いので、情報を上げて頂いて、児童館だけでなく児童館の全域で声を掛けて頂いて親御さんが希望する中身の情報を教えて頂けるとありがたい。

森委員はスマホで子育て世代の親御さんが飛びつきそうな講座の行っていた情報を知らせてもらえればありがたい。1か月・2か月位時間を置いてどんな講座を立ち上げていくかを考えていければいいし、沢山アイデアが出れば他の年度でも行っていけばいい。

増田：飲食の問題が一番難しいと思う。そうすると時間の制約が出てくる。

大橋：前に増田委員が仰ったようにシューフィッターの講座の参加者減少は、食の提供が1つの大きな要因となっていたとの部分もある。3月12日は食の提供はなしとすると前回と同じようになる。どこかでは食の方は解除になると思う。1年後位だから少し良い情報が聞けるかもしれない。そういうことを願いながら同時に内容は考えていかないといけない。

(2) 来年度に向けて

・講座の柱について

石川：今まで通りの形で来ておりますが、地域の居場所作り・地域の発見・新しい住民の地域デビューとその他に防災、認知症予防講座等を4つの柱として立てています。クロスする形で対象を子ども・子育て世代・高齢者に対象を絞る講座を企画してきたと思います。

事務局の考えですが、大きな柱は頻回に変えるべきではないと考えておまして、この柱に沿ってまた新しい企画を立てる方がいいと思います。皆様のご意見を聞か

せて下さい。

大橋：これまで行ってきた講座の柱の部分を精査しながら、柱としては縦軸に 4 本の柱でクロスして対象を子ども・子育て世代・高齢者と考えてきた。柱と対象の取り上げ方はどうでしょうか。

広瀬：この柱はいいと思う。来年のことを考えた時に軸を横にずらしただけではマンネリになり易いので、他の学習館が行っていることは分かりませんが冊子を見て西砂で行いたい講座があれば取り入れればいいと思う。

・講座の対象について

大橋：4つの柱と3つの対象で行われている内容がどこかには入るし、くくりの中では取り入れられていると思う。内容を西砂で行っていないく他の学習館で行っているものもありますが、地域の居場所作りは高齢者対象の講座とくくりは出来るかなと思う。他の学習館がどんな内容を行っているのかを見れば参考になる。柱と対象の部分はこれでよろしいでしょうか。

広瀬：他の学習館はこのような柱の立て方をしていない。

大橋：伝え易い部分でどんなテーマで何処を対象にしたのかと 2 つは絶えず出てくるが、分かり易くなっている。広瀬委員が仰ったように実際に講座の具体的な内容を考えていきご意見を頂けたらと思う。

・具体的な講座内容について

○西砂サマーイベント～火曜日は学習館へ行こう！～

石川：実際今年度行った内容をそのまま書いてあるので、この形の他に追加で改善や変更があれば、来年度に向けて変えていきたいと思います。

先ず初めに西砂サマーイベント「火曜日は学習館に行こう！」についてですが、今年度の課題は学年を超えたグループ化になります。低学年の人が達成できなければ、高学年の人が助けてあげる。難しいパズルが複数ありグループ化に向けてや、食事の手伝いをしてくれるサポーターの範囲を広げて、なるべくオープンに出来ないかと思っています。

出来れば中学生に夏休みの宿題を見て頂いたり、午前中は小学生向けの企画なので今まで小学生だった生徒が中学生になり、せっかく来て頂いたのだから関係性を残す為にも、自らがボランティアになってお昼ご飯を作るのを手伝って頂いて、みんなと一緒に食べて午後そのまま残って貰うスタイルで入って貰えたならばいいと思う。

場合によってはお昼ご飯を作る時に今、運協の委員の方々と少しのボランティアで行っていると思うが、男性の料理サークルもあり、西砂学習館を利用されている団体で何かお手伝いをしてくれるサークルがあれば、広く皆に関わって頂くような

形で地域をあげてのものにしていかなくてはいけないと思います。

午後の勉強についてですが最初の方は宿題が皆あるので一生懸命勉強しているが、後半になると優秀なお子さんが多いので宿題が終わっている子が複数いて、大きな声でしゃべり、うるさくなってしまい勉強をする雰囲気がなくなる。

今年度から上記のようなお子さん対策に小笠原委員が工作をして頂いたり、楽しいバルーンアートを考えて時間を過せるようなことを行いました。上記のことを踏まえて提案がありましたら教えて頂けたらと思います。

大橋：実際これから具体的な内容に入っていきます。PDCAの一つの事業を起こして次年度の計画を立てていく中で、とても大切な会議だろうと思う。Pのプランは計画を立てて、実際に去年の夏にDOで実行した。これからCでチェックして、行ったものを石川係長が3点提案している。行ったことのご意見等を聞いて、実際に検証する必要がある。話し合いをして出てきた部分をアクションとして令和3年度の実際の講座に活かす必要がある。

実際に3つ提案が出ていて1つ目になりますが、広瀬委員も仰ったように実際に申し込んでいる子ども達は数としては低学年が6~7割、中高学年が3~4割の形になっている。低学年の割合が多くなってきて内容が難しいと低学年だけでは大変になる。

石川係長が仰ったように、意図的に学年を混ぜてしまう。グループ化の部分で高学年の子ども達が低学年の子ども達に見てあげることや教えてあげたりする体制をとった形で進めていく提案になるのかなと思う。

2つ目は昼食の問題で実際に運協の委員が行っていくことも意義があることと思うが、続けてこれているので1つは中学生のお手伝いで食のところで先ず中学生を開拓していく。

地域全体をあげて「火曜日は学習館へ行こう！」の講座を支えることが大切。実際西砂学習館を利用しているサークル等に、昼食の支援のところでお力を借りられたらいい。広く支援者をつのっていく必要があり、広げていくことが2つ目の提案になる。

3つ目は午後の問題で学習支援は大きな意味がある活動と思うが、実態を見ると7月末~8月の頭までの時には宿題が残っているので頑張っているけど、中盤から後半になると宿題が終わってしまっていて、勉強を続けていくことが難しくなってくる。自分の勉強を持ってくる子もいるけど、今年度からは午後の部分の時間に工作活動や、プラスアルファの講座をいれて活動が入ると子ども達が5回ないし4回の講座を楽しく過ごせると思う。

学習だけでなくプラスアルファとして活動を入れる部分の形やパターンが当然必要になってくる。

石川:どうしても予算の問題で事前に決まっている1日は無料で行ってくれる必要があり、

図書館職員の講座が必須の条件になる。その中で来年度はどうなるかは分かりませんが、今年は西砂小と松中小で夏休み期間が異なっていたことは異様であった。初めと終わりに同じ講座を行って、同じようなものを提供するようにした。

来年度の小学校の夏休みスケジュールが判明しませんが何もまだ組み立てることが出来ませんが、出来れば今まで通りに夏休みの宿題または自由研究か自由研究の良いヒントになるものを行えたらいい。

どうしても理科または算数のテーマになってしまうと思うが、今まで通り行う。せっかくパイプが出来たので「楽しいパンづくり」さんはとても希望が多いので行って貰う。もう一つは西砂地区のことを覚えて貰い、お昼ご飯を兼ねて行うのであれば西砂産の小麦で作ったうどん作りでみんなで打って食べることがあってもいいと考えました。

大橋：運営協議会に出た時に今年は西砂小の夏休みが1週間早かったような気がする。多分7月21日から8月が1週間早まる様な気がした。最悪4回になってしまうと思う。内容の部分や予算もあるので、図書館・人気のあるパン作り・文化会で行っているうどん作りを活動と昼食にしてくっつけることも出来るし、それから自由研究の話もありました。具体的に面白い講座があれば話して下さい。

広瀬：グループワーク的な講座を試しに1回行って見たら良いと思う。出来る先生もいるし、出来るだけ学校みたいにならない内容がいいと思う。うどん作りは文化会の方でも行っているし、こちらで行ってもいいが時間の制限もあるので文化会にお任せするのがいいと思う。

大橋：広瀬委員が話していたグループワークについて中身を教えてほしい。

広瀬：今盛んにアクティブラーニングが流行っていて、啓明にはすごい先生がいる。小学校1年生～6年生の皆集まってバラバラなものをグループにして、グループ単位で物事を行っていく。いろんなゲームであったり、話し合いになったりするが2時間位かけて行い学んで貰う。テーマを決めて各グループで話し合いをして結論を出して発表して貰う。

岩元：今の話を聞いていると錦学習館で学芸大学の生徒さんが企画していると思うが「火曜日は学習館に行こう！」の事業の中に学生さんと同様の講師を行っている方を招いてみてはどうかと思います。

1つの講座にしてアクティブラーニングのミニチュア版でも地域版でも1回講座の中に組み込んでみる。私達大人も現実にどんな影響を与えているかを考えてみる機会を作って頂ければと思います。アクティブラーニングを研究されているお子さんもいらっしゃると思います。そういう人を活用出来たらいいなと思いました。

大橋：石川係長が仰ったことは子ども達が低学年から6年生までの学年にばらつきのある参加者なので低学年・高学年と分けてしまうと内容が理解出来なくなってしまう場合がある。6年生から1年生まで混ざった縦割りみたいな形でグループ化して講師が

話した内容を高学年の子どもが理解しつつ、中学年・低学年の子ども達に教えながらその講座を薦めていこうとの意味合いで話したのであって、広瀬委員が話しているアクティブラーニングについて研究している人がいるかもしれない。

我々は学校現場でアクティブラーニングを実際自分の学級で縦割りではなく実践している。例えば課題が出されて掛け算や割り算の公式を導く為に考えて見ようと課題が出される。

そうなる子ども達は今まで生きてきた家庭の中で個人なりに解き方を考えて見る。考えてみたことを隣の人や少人数のグループで意見を交換しながら自分が気が付かなかったこと、或いは人に伝えて行動を起こすことによって考えを確かめたり・深めたり・広めていくような活動をしていく。

更に今度は全体で発表して後、全体でやり取りをする中で最終的に正しい方法で計算をすると間違わなくなる結果を導き学んでいくことがある部分、アクティブラーニングの課題解決型の学習を進めていく中で必要なことになっている。

人とのやり取りと全体討議をしながら導いていく方法論をアクティブラーニングと呼ぶ。そのような主体的な学び・深い学びをとっている。西砂小や松中小の教科の進め方で立川市自体がアクティブラーニング的な形で授業を進める指針が出ているはずだ。

岩元：以前西砂小の研究発表があって見させて頂きました。十年位前に西砂小が立川市全体の研究校になり、その様なやり方をして子ども達が今までの経験の中から方法を導き出して行っていました。

大橋：課題解決型といって実際ポイント 1 つ課題が出された時に全部既習の事項を通して新しいものに繋げていく為のものになっている。

岩元：先生が上から教えて板書したものを映していくこととは全然違う訳ですね。

大橋：そのような方法と思ったが「火曜日は学習館へいこう」の様子を見ると縦割りでグループ化をしないといけないと思った。広瀬委員はプラスチックのごみ問題についての様な課題を出した時にそれぞれのグループでパソコンで調べたり・討議をしながら、解決に向けて話し合い最終的に提案する形を話してくれたと思ってイメージが湧かなかったので聞いてみました。

広瀬：進め方は概ねそのような形です。企業はとっくにその様な体験を中心としたワークショップ的なやり方をしている。やっとな十年位前から小・中学校の授業に取り入れた。「火曜日は学習館へいこう」を行って来て、マンネリ化した部分もあると思ったので1日入れて見て様子を見たらどうかと思う。

話し合いをした中でとても良い結果を求める狙いは余りない。グループで出した答えも大事だが2時間で沢山の関わり合いで自分がいかに感じるかや、話が聞けなかったり、科学的なことは興味がない等いろんな考え・気持ちで振り返りを感じる事が出来る。

自身の気付きも 1 つ大切な要素になっている。発表の項目が大事ではなくて、出てきたプロセスが大事と思う。小学校 1 年生は 1 年生なりの気付きがあるだろうし、6 年生は 6 年生の気付きがあるだろう、そのようなやり方がいいと思う。

岩元：児童館では低・高学年ごとに分けていますよね。全学年をグループ化していくことは無理があって、3 学年ずつ分けたいと思います。

小笠原：児童館では自然発生的にわかれています。中学年が主導して小学生とゲームをしたりサッカーをしたりこちらが仕掛けるまでもない。

大橋：やっぱり仕掛けが重要。結局それが自分にとって必要な課題でないと、解決してこの気持ちにならない。

広瀬：アクティブラーニングは振り返りをとても大事にしている。最後の振り返りで学んだこと・感じたことの気付きをしてほしい。

森：アクティブラーニングはとても良い考え方と思う。実際に去年来てくれた小学生の子ども達の顔を思い浮かべた時に、1 年生が 6 年生と縦割りになった時に自分の意見を言えるような内容が出来るかどうかと思います。興味が全然違ってくる。

多分学校で行う時には授業に向けて色々と下準備や沢山のことをして、ある程度自分の中で予備知識があって、子ども達の感受性が生まれている。いきなりパッと違う子が集まって名前も知らない中で、1 年生から 6 年生が集まって本当に子ども達が考えたことを低学年生が発表して楽しいと思えるかどうかの観点を考えた時にちょっと無理があると思います。

前に折り鶴を行いました、難しくて分からなかったが折り鶴みたいなことをグループワークで行えばいいと思う。先生が教えてくれたことを低学年生は分からないけど、高学年生は分かった場合に作業で助けてくれればいい。作業を一緒にして低学年生の出来ないことを一緒に拾ってあげるような作業でも十分楽しい。

大橋：私が話をした縦割りは教え合いの形で話をしましたが、アクティブラーニングとなると主体的に参加している訳で、自分にとって必要な課題でないと解決には向かわない。アクティブラーニングは教え合いではなく、講座の中身を見た時に縦割りで教え合う場面があればいい。

実際に 1~2 年生にとっては難しい講座と思うので、5~6 年生がヒントをあげるなど助けてあげる等の活動が入ればよかった。広瀬委員は 1 歩進めた形の課題を解決する過程で、最終的に自分がどんな形で理解するかの考えを子どもから出させる形がとても大事と話し、そのような講座を行ってみたいと考えていると思った。

そうなる講座自体を今の子ども達が当然考えなくてはいけない。緊急・共通の課題で偏見や差別をなくす為解決に向けて提案した時に、先生がどのように進めていくか分からないが同様の講座を行ってみたいと思った。そうなる先程岩元委員が仰ったように、大学生を講座の先生にしたりするといいかも。

岩元：森委員が仰ったように 1 年生から 6 年生だと知的レベルも違う。どうしても子ども

の成長の度合いから見ても1つのテーマや関心がまず違う。1年生から6年生だとしても違いがあって、1つのテーマは厳しいと思うし受け止め方も違う。中学年くらいのレベルになれば、同じ課題も可能と思いますが、小学生の1年生から6年生であったならば年齢差を感じる。

そういう意味では統一のテーマ・作業等は厳しいだろうと思います。昔は兄弟が多かったから兄や姉が弟や妹に教えることは当然家の中であったが、今はないので縦割りがすごく大事と思う。知的レベルを考えると大橋会長が話した内容だともう少し現実味がある。

大橋：森委員が仰ったように教え合う活動の部分を入れていく形のグループ化であれば、流れの中で講師の選定もありその部分で解決できるかなと思う。実際今度生涯審の話もあると思うので倉持先生等に相談して、アクティブラーニングの手法を活かした講座を実際行えないかで私が情報を集める。そうでないと1つの講座を開くのがとても大変になる。講師の先生に全部準備をして貰って、講義中の流れも全部考えて貰い委員も参加するだけだった。

広瀬：学芸大に倉持先生のゼミを2年間毎月お邪魔していた。学芸大ではそのような講義を多く行っている。ゼミは全部そのようなやり方で子ども達の授業もアクティブラーニングの形で如何にするかが一番の課題。アクティブラーニングは近年盛んに行うようになって来て大学でも流行っている。アクティブラーニングを行える先生はちゃんといますので、大橋会長も行えると思う。

長谷川：アクティブラーニングの話とサマーイベントの縦割り班の話と2つ議題に出ている中で、サマーイベントの時には1つの縦割りで学年が違う子ども達で教え合いながら行きたいと思っています。アクティブラーニングについてあまり知らないので、広瀬委員の話を聞いて興味を持って、先ず大人が見ていないと子ども達に伝えられないと思いました。

大橋：情報を少し集めて、今すぐ行くことは出来ないが知らせることは出来る。岩元委員が仰ったように学校教育の中で縦割り班が昔は必要なかった。現役の時にわざわざ縦割り班を作って行事をすることを行っているが、少子化で兄弟がいなくなって上下の経験が少なくなっている。縦割り班で一緒に給食のご飯を食べたり、活動をしたりする。兄弟の部分を6年間で一緒に体験させる為に意図的に班を作っている。そのような学び合いみたいなものは出来るかなと思う。長谷川委員が仰ったことは情報を集めて何か見る機会があるかが分からないがご提案出来れば良いと思う。

岩元：夜間塾で両親・祖父母とアクティブラーニングを1つのテーマにして教えて頂けたらと思う。

長谷川：時代時代にあった児童のやり方が変わってくる。

大橋：立川市自体の授業の進め方は、課題等や自己解決が提示されていると思う。グループで討議をして最終的に言う課題解決型の学習を進める細かくプロットが出来てい

る通りに授業を行っています。

広瀬：小林委員は10年位前から体験学習でアクティブラーニングのやり方をしている。そう難しく考えることはないし、教えることをきちっと確立している学習ではないので5人のメンバーと交流しながら、そこで自分を見つめたりすることで気が付いていく学習になる。話し合った発表の項目が大事とのことではない。それよりも2時間のプロセスの中で振り返りと気づきがポイントになっている。サマーイベントの中で全ての日に行おうという訳ではなく1日のみを考えている。

大橋：情報集めを進めていくことでよろしいでしょうか。石川係長からうどん作りの話が出ましたが、活動と昼食の部分で1つ講座として行える部分もあるかもしれないとのことの意味で提案してくれた。私は石川係長と違う意味で提案して、個々のエリアを考えた時に民族と伝統の部分の講座が学習館で計画できるのか、または学校と地域を交えて出来るのかと考えている。

前に西砂の方言の話題になった時にも話しをしましたが、西砂の方言と地域の伝統文化とセットで講座が組めないかと思う。講座は夏休みのことを言っている訳ではなくて、地域の居場所作りの問題でもいいなと思っている。

前に十五夜の暗闇祭りの時にも話しをしましたが、伝統行事が残っている部分も子ども達には知って貰いたいし、故老の方からも話を聞きたいと話しをしました。夏休みの講座にもうどん作りを入れられるのではないかとのことは石川係長がしてくれた。うどん作りは松中にしても西砂にしてもたいまつ保存会の人達と5・6年生が体験でうどん作りを行っている。

学校現場の中にはうどん作りが立川市民科か協働本部の事業で入っている。実際は伝統や民族学的な部分はまだ取り入れていないのではと思うので開拓したいと思っている。夏休みの講座は4~5回位しか行えないし、その部分まではまだ行かないかもしれない。

○にしすな夜間塾

石川：今まで行ってきた形でいいのかなと思う。新しいことを行うのにあたって、PTAや学校の要望を聞いてみたことを元に企画を考えたらより新しいものが出来るのかなと思います。委員の中で考えることも大事だと思うが、参加して頂ける子育て世代の方やPTA関係の方かなと思う。

場合によっては学校から要望の頂いたりすれば、キャッチアップして行うことを決めてもいいのかなと思いました。新聞報道で出ていますが、小学校で立川市民科のことを教科に入れるかも知れないとのことが出ていましたので、市民科のことをどんどん取り入れていこうとの方針がありましたので、西砂川地区を立川市でも優秀な地区にしたいなと思っています。出来れば立川市民科のことを地域で学習館が行う事業の中に入れるといいのかなと思いました。

大橋：情報を何処から集めるかの部分で、1つはPTAから聞くことも方法かなと思う。或いは長谷川委員や岩元委員は学校の評議委員になっているので会議が終わった後で、校長先生や副校長先生に要望を聞いてみてほしい。

保護者が地域でどんな講座を開いて勉強してくれるのは嬉しいし情報を集めて聞いてほしい。情報を出して帰ってくるかは分からないが、このようなことを地域で親御さんに勉強して貰えるとありがたいねとのことが出てくるかもしれない部分で情報は聞いてみてはと思った。小笠原委員には児童館の部分でも情報を収集できたらありがたいと思う。

広瀬：児童館と一緒にやることはいいことですが、場所は児童館でないといけないでしょうか？児童館の主催でもっと広い場所で行えたらいい。

大橋：実際は子育ての保育の問題もあるしそこからスタートしている。石川係長と話をしたが実際には児童館ではない広いところになった時に例えば、保育の手伝いもして貰っていて甘えている部分もあるが別の場所になると保育もきちんと依頼して、時間の手当てを出すことも必要になって1つの講座を開く形になる。そのような部分も考えてほしい。2回ある中の1回は児童館で、もう1回は西砂含む会館で行うことも1案になる。参加のエリアが限定的になってしまうことを心配して、広瀬委員は話してくれているかもしれない。

松中の人にとってはとても良いが西砂の人達にとっては参加し易い場所かどうかと思う。夜間塾でなくて日中の講座を立ててもいい。広瀬委員が仰っている部分もいくつか考えられる。夜間塾を1回は児童館でもう1回は別の場所で1回ずつ行うかまたは2回とも児童館で行い、こちらのエリアの方を考えて同じような講座だけれども別の講座を日程で組んで行ったみたいといいとの考え方もある。

森：確かにちゃんと保育を行えるので児童館はいいなどの考え方もあるが、西砂川の間からすると駐車場が使えないから車でいけない。子どもを夜自転車で乗せていかなくてもいけないとなると距離的なハードルは高くなって、出席出来にくくなってしまう。

岩元：講座を例えば日曜日の午後にするのがいいと思う。

森：なぜ夜間塾を夜間塾の名称にしたかという夜間だったらお父さんも参加出来る、週末だったら遅くなくてもいいから次の日のことを考えなくていいとのメリットがあった。これからはもっと工夫して2回ある中の1回は学習館・児童館方面、もう1回は違うところで行う等、参加出来る人のエリアを変えてみたら、初めて参加してくれる人も増える気がします。

小笠原：森委員が話してくれたことと同じことを非常に感じていて、松中小学校の生徒さんや親御さんたちはよく分かっているからハードルは低いけど、特に西砂一丁目から四丁目の方達は位置も分かっていない状況になっている中で来づらい部分が当然あると思います。

夜間塾の仕事をしながら子育て世代の対象が子どもを気軽に預けられなくて、勉強をしたい人がターゲットとなった時に委員も児童館にこだわる必要もないし、児童館はいかようにもお手伝いする。

別問題としてニーズによって場所が変化することは「あり」と思っています。場合によっては日曜日の午後に行ってもいいと思う。夜間塾から離れてしまいますが、子育て世代向けの講座を逆に児童館で行ってもいいと思います。昼間だったら来られるし、夜間だったら車で来なくてはいけなくて別の館で行う等、今後は柔軟な考え方にしてもいいと思う。

大橋：言おうとしていることは良く分かりますが食についての手当てをして頂いて、今まで児童館で行ってとてもありがたかった。今度は昼間になるか夜になるか分かりませんが、エリアを変えた時に食の手当てが出来るかどうかを心配している。出来るのであれば誰がどんな手順で準備を行うかがポイントでエリアによって参加し易くなるメリットは出てくる。

今まで児童館で行っていた同じものを委員が負担をしないといけなくて、児童館におんぶにだっこになっていたが、これからは委員が概ね準備をしていかなければいけない。

小笠原：場所提供とノウハウがこちらで出来ていたの、そのままどうぞと言えましたがそこに固執する必要はないと思います。一番最初の立ち上げの時も調理を伴ったし児童館以外の方が便利となった場合には、児童館以外で開催される場合もあると一番最初の時にあったと思いますので柔軟に対応出来たらと思います。

大橋：西砂会館を使いたいと思ったならば、必要なものの準備は全部大丈夫ですか。

岩元：全部揃っています大丈夫です。

大橋：食の提供が必要になった場合、西砂会館も西砂学習館も場所的には可能である。食の提供を含めて考えた時に、実際は提供出来る部分の一つあります。

小笠原：そうなるとても変な言い方ですが財源の問題があって、児童館内の場合には行事費として児童会費は使えるが、館外になるとそういう費用は使えない。共催事業になっているのでダメとは言われないはずですが、一つ超えなくてはならないハードルは高くなっています。決まり次第石川係長と話はします。

大橋：費用的なハードルはあるかもしれない。外部で行うとなった時には、地運協費用の中から講座の食費を賄わなくてはいけなくなってくるし、計画をする段階で考えなくてはいけなくなってくる。エリアを考えなくてはどの部分が出ましたのでまとめる必要があると思います。内容については出来るだけいろんな部分で私も考えるし、他の委員も情報を集めてきてより子育て世代の方にとって必要な情報を提供出来る日常になればなと思います。

○地元を学ぼう

石川：今年度は豊泉喜一先生にお願いしまして、「西砂野仏を訪ねて」との形でした。実際すでに市民交流大学でも行っていました。リピーターの方が何名か参加して同じところを周ったのに話す内容がまた違って、新たな知識を得ることが出来たとの話を聞いています。

豊泉先生は自分が元気のうちに立川や砂川の話が出来れば、若い世代に伝えたいととても希望してくれました。本来ですと、今回行った野仏についても若い世代の方に是非参加して貰いたいとのことで、松中小・西砂小の方には1週間早く先行予約出来るようにしましたが、先行予約期間にはどなたも申込はありませんでした。一般申込が始まって、すぐに満員になりました。どちらかと言うと若い方より年配の方で市外からも参加されている人気の講座でした。

今年度はいろんな話を沢山しましたが、来年度は座学で大橋会長が仰っていたように「月見の時には何かが起きる等」や「大根を抜いた後にはお団子を入れる」等のお話しがいっぱいあるみたいですので、その話を聞くような形で豊泉喜一先生にお願いをして座学が出来たらいいのかなと思いましたので委員のご意見を頂ければと思います。

大橋：地域を学ぼうの部分で実際豊泉先生の講座が好評で非常に良かったと思います。参加者のターゲットですが、出来るだけ若い人達にも参加してほしいとありますので、広瀬委員の目指すターゲットはプラス地元砂川在住の人と話をしてくれました。

ターゲットを子育て世代の若い人達にもターゲットを広げていったらとの部分で課題があるが、豊泉先生に毎年講座を持って頂くような形で方向性として考えています。話を聞けるうちに何回か講座をして頂いて自分たちの財産にしたいと思う。

広瀬：毎年ではなくて、今年・来年は最低2回ずつ講座を行って貰う。立川のことを分からない人達もいますし、外から来た人達も全然分からない人も多いので、立川のことを1回、地元のことを1回の最低2回ずつ座学で行ってほしい。

大橋：座学を2回行って貰おうとの部分で豊泉先生と話す機会がありましたら、講座の内容を詰めていっていけるといいかなと思う。

広瀬：外から来た人が多いですから、やっぱり土・日曜日は入れた方がいい。

大橋：子どもも一緒に参加出来るような講座にすると当然世代が若くなる。うどん作りはそうなっている。うどん作りに来てくれているお父さん・お母さんは若いので、そのような方がターゲットとして来てくれれば嬉しい。

加藤：元々「地元を学ぼう」の講座を考えたのは数年前ですが、広瀬委員が仰った様に外から来る人が多いからその人達が参加して頂くことが1つの狙いだった。その中で今までも地元の人達は沢山参加してくれていた。今回は何故かなと思うが小・中学校あるが昔は新しい家庭に全部チラシを入れていたし、知っている方に声掛けたりのアクションを行っていて、地元を学ぼうの西砂地域で新しく来た方や前からいる方もいますので、地元の人達に如何に参加して貰うかを別の策として実行出来

ればと思う。

豊泉先生の話が先程ありましたが、私も豊泉先生の話の聞いたり、講座を行ったりしていますが地元西砂の話だけではなくて、立川市全体の話をよくしてくれている。立川市と西砂地区を段階的に来年度に2回行うかや2年間続けて行うかと豊泉先生のご希望を聴いたりして、両方行うこともいいのかもしれない。

大橋：この話を例えば西砂のことは単年度等の中身をどこかで詰めないといけないし、座学は座学ですが食事付きかどうかもあるので一緒に考えていきたい。豊泉先生を講師に迎えて講座を開くことを来年も是非踏襲していきたい。また別に話す機会を設けて貰えたらと思う。

○西砂川での災害を考える

石川：先程こちらの話をしてしまいましたすみません。今年は中止になってしまいましたが、個人的希望も入っていますがコロナが落ち着いてコロナのことを考えなくて良いような年度になって貰いたい。今年出来なかったタイトルを行うよりも、来年度は来年度で新しいものを考えた方がいいのかなあと考えています。西砂川地区は独特のところもありますので、この辺りに住んでいる方に向けて「災害を考えたら」どのような講座が良いかを委員のご意見を頂ければと思います。次回までにアイデアを頂いて来年度に向けて進んでいきたいなと考えています。

大橋：コロナ禍のことがあります、是非講座を開催出来たらと考えています。中々コロナに特化した内容の部分では情報が得られそうにない。今、石川係長から話がありましたが実際に講座開く頃にはコロナも収束している状況で「西砂川を考える」を行えるようになっていくと思う。ここに特化した形で或いはこういう内容で講座を開いてみることを考えてみてほしい。

西砂川に特化した情報を聞くということは出来るかもしれないがメインにして、講座を開くことができるかどうか気になる。

加藤：災害全体をコロナに特化することは難しい気がします。只、質問の中や委員のやり取りや或いは全体の1~2割は西砂に関連した話をして貰う。前に周ったことがあった時のような話をして貰う。

前回は話をしましたが、2~3年前に私の家にも水が入って来て、横田基地からの水でしたが何故入って来てその後どうなったのと疑問に感じた。その時は国や都から横田基地に連絡して貰えたはずだが、その後どうなったことを含めて西砂地区は特に井戸水が横田基地の関係で飲めないことがある。立川全体でも災害が起きた時に農家の井戸水が提供出来るのではないかとと思う。

西砂独自の話が質問の中に出て来たので話を付け加えて欲しいなと思います。西砂の防災講座の観点でと個人の質問になるが西砂地区で行うとのことで質問が出て来てほしいなと思います。

大橋：質問を出してその辺を回答して貰い、講座のある部分の一部で捉えてそれが全体になった時には、防災課は講座をどう組み立てれば良いか迷ってしまうかもしれないと思ってしまうが、そのように考えると西砂での災害をある部分質問としていくつか回答して頂くことを考えるにしても全体 3/4 くらいの講座としてはどんな講座を企画していったら良いか内容なのかなと思ってる。

広瀬：私は西砂を大事だと思っている。災害一般の話をみんな聞いてみたいと思っていると思う。西砂川を特化した・今年ここで行おうとした災害の講座が良いかなと思う。

大橋：どこまで1時間半・2時間の講座で西砂の部分の話をして貰える割合が気になる。

石川：防災課長は、先程仰っていた横田基地から流れる水のことについて所管が違うから話せないと言っています。話せることは立川市防災計画に基づいた内容で、少し西砂に関するところを付け加えた形でメインは立川市防災計画に基づいた内容。

横田基地は他の地区にない西砂独特の部分ですので、横田基地関連は切れないところがあります。横田基地の滑走路にいっぱい水がたまった時、滑走路だと地面の中に浸透しないので水を何処に流す等色んな問題がある。場合によってはアメリカ軍の救助等を期待出来ないかなどを何処に聞けばよいのか分からないでいるところでは。

加藤：そのように広瀬委員は仰っていて話を聞いていた中で、結果的に広瀬委員が行かないとしたら質問の中で聞いてみたらと思っている。本来こちらは地元なので色んな話があるが、私も3年位前に水が出てきた時に中里地区の私の家の近くの人集めて、出前講座を行った。

災害があった講座だから広瀬委員も来てくれて、色んなことを話してくれて宿題もいっぱい預けました。残念ながら今の行政は来年課長さんが変わったら分からないけど、今はそのような状況。状況を踏まえながら出来るだけ広瀬委員が仰ったようにこの地区の話を仕掛けるようなプレゼンをしていきたい。

前回も行ったみたいに自治会の防災関係の方には是非参加して頂いて、一緒に防災の話をする場を作る観点でもポイントと思う。

広瀬：井戸と畑があると思いますがそのことが西砂地区の特長と思う。

加藤：この地区は井戸水が飲料として使えなくて横田基地からの制約がある。

岩元：市役所の防災課は何年か置きに課長が変わっていて、防災計画等を管理しているのが防災課のイメージと思っています。立川には消防庁の防災所がありますが、防災館の体験するところで、災害に備える基地もあるので活用することも一つの考え方ではないかと思っています。

この地域のことをもしかしたら分からないが、一般的な防災の意味で私も何回か行っているが行くと行かないでは違うし、私達立川は館を活用出来ることで防災ボランティアと市役所と防災所は活用できるから3つ考えがあることになる。加藤委員も仰ったように自治会の防災担当の方と一緒に講座を行えたら地域に広がりが出

来る気がしています。

加藤：この講座を行うとしたら我々西砂に住んでいる人達が西砂地区の各自治会の防災担当の方と話をしたり、顔がお互いを分かる場を作れば良い気がします。そのことも狙いと思います。

岩元：自治会も支部単位で行っていますし支部で防災担当の方がいらっしやって、常に考えていてくれる気はしますので一緒に行えるといいです。

森：以前行ったHUG（ハグ）の講座はとても良かったと思います。日頃生活をしていて防災と言われてもどういところが防災なの？と、根本的な何を持って防災と考えたらよいか全然分からない。

避難所運営も始めてもらったから時間が掛かってしまうし、幾つも出されて分らず終わってしまったこともありました。行った時にこの部分が出来ない災害が起きた時にダメなのと、改めて具体的に1つ1つ考えることが出来たので、1時間行わなくても短い形で20～30分の講座にしたり、その中で疑問が出て来たことを行政の方も一緒に参加して頂いて、質問するとか実際にちょっと自分がこういうことが大変だと分からないと話を聞いていても、なんとなくで終わってしまうと思います。

HUG（ハグ）の講座を行った時にこういうことが大事やトイレの問題や具体的なこともそうであったし、自治会との上手な繋がり方等の身近な課題を自分自身で見つけることが出来たので、何かそういうことのプラスアルファを入れてほしいと思います。

大橋：HUG（ハグ）を使った避難所運営ゲームも初回ではさばき切れないが、あの部分が実際には避難所運営の時に必要になってくる。それぞれの地域で防災の人達は全部行えるように訓練しているかもしれないし、少なくとも話は聞いていると思う。

HUG（ハグ）の講座を1回行ってその為に子育ての方と障害を持っている方達にも参加して貰って、複数の視点でHUG（ハグ）を通して課題を見つけて実践する防災の運営協議会みたいな会が開催される時に提案を持って行って頂けたらと思います実際に行って見た。

森：きっと何年か経っているので来るメンバーも変わっているし、何回行ってもいいと思います。その度に新しい問題点が出てくると思うので、色々なジャンルの形を設けて頂いて、子ども連れの親御さん達が考えられるように上手く時間配分を行っていきたい。みんなでアクティブラーニング出来るような時間を設けて最終的な形にすればいいかなと思います。

大橋：焦点化は行うことが出来ませんが、幾つかの話があって広瀬委員は西砂辺りの講座に特化した形での部分であったかなと思いますが、行政でそれだけのものを1時間半の講座を組み立てるのは難しいと話が出ていた。

加藤委員が仰ったように質疑の時間を取って頂いて抱えている課題を事前にお知らせをして頂いて、返答や回答を頂くような時間の割り振りが必要かなと思う。そ

の部分とプラス防災館を見学して体験していくものやHUG（ハグ）を通して私達がこのエリアの課題を再確認することや何回講座を行っても避難所に行く人たちの1人でも多い人がHUG（ハグ）を経験していれば避難所運営をする時に重層の視点で意見が出せるかもしれないと思う部分もあるので、HUG（ハグ）の講座は何回行ってもいいものと思う。

防災ボランティアの方達が持っている知識を教えて頂けたらと思う。防災頭巾で緊急の持ち出しを1つにまとめていくことの知識を参加した人たちはすごいと仰っていた。

これと絞れないがまたある時期で計画を立てる前にいくつか出てきた中でどんなことが計画出来るかを委員が考えて見ることで今日のところは一本が出来ないがいいのではないかと思う。

○認知症予防講座

石川：今年度は講座を開いてとても良かったと参加された方のアンケート内容がありました。特に良かったのは岩元委員が行ってくれた音楽でボケの防止になることが非常に驚きだったみたいです。

アンケートに沢山記載がありましたし認知症講座は同じような形で毎年行うことがいいのではないかと思いましたが、また進藤委員にお願いして地域包括支援センターの方と岩元委員が今年と同じような形で行えたらいいのかなあと思いましたが各委員いかがでしょうか。

大橋：この講座が隔年だとか3年に1回等の類の講座ではない。同じ人が毎年出たとしても且つ広がらなくても必要な人が集まって受講するとすれば必要な講座なのではと思いました。今回行って身体を動かす部分がとても好評だったので、認知症講座は講師料もかからないので会場だけを準備すれば出来るような内容だと思う。

岩元：私は自分の予防の為に講座を行っています。

大橋：毎年講座を行って頂くと包括でも話すことが流暢になって来て、良い感じになってくると思う。毎年講座を聞くと包括の進め方がとても良くなってきているし、毎年行っていくことにする部分で、また新しい取組があれば別ですが岩本委員にお力を貸して頂いて実際に脳内で刺激を起こしてボケの防止に少しでも進行を防ぐことが出来ればいいと思いましたが。また、進藤委員と岩本委員よろしくお祈いします。

石川：両委員よろしくお祈いします。

○西砂産業まつり

石川：西砂産業まつりというのは前の係長の時からずっと書かれていて先送りになっていて、とても難しいと思うところがあります。その中でなぜ難しいと思った時に、そもそも開催の目的が分かりづらかったり、具体的などころを皆で考えられていな

いところもあるのかなと思います。

西砂の地域と限定すると地元の農家や村野さんのだるま作り等を広くアピールして行ってプロジェクトのメンバーに入って頂くことになる。全体を考えていってあまりにも考えが大きすぎて行えなくなってしまうと思います。

場合によってはお祭りではない位小さなことでも何か1つ始めてみて、小さい破片を集めていって最終的に「お祭」の形にすることは出来ないかなと思います。まず小さな1歩を進められないかなと思っていますが、いかがでしょうか。

岩元：西砂学習館まつりの時に少しでも産業まつりコーナーを始めてみれば、大々的にしなくても地域のこのような産業があるだけでも行って見たらと思う。西砂の産業は農業ですけれども、お花があったり植木があったり野菜があったりですし、畜産で牛を飼っている方もいらっしゃいますしパネル展示みたいなものでいいし出来る所から始めて見たらと思いました。

大橋：方法論としては出来るところからになるが主旨は分からない。ある程度の狙いや1回提案をして委員皆で確認をして、取り組む手順としては岩元委員が仰った様に学習館まつりの場等を通して出来るところからが方法論になってくる。

いつもいつもこのままで終わってしまっている何の為に西砂産業まつり行うかの部分を各委員考えていると思うが、各委員が合意をした形でスタート出来ればいいと思った。

方法論は学習館まつりを使うかどうかは分からないにしても出来るところからで、例えば地場の野菜等はとても関わりがあるので、先ず最初に行って貰うことが出来るかもしれない。

取り組み易いところから点として始めて最終的には面になるような感じがいいのではないかと思って、石川係長は仰ってくれたと思う。実際西砂学習館まつりとなると地場産業の野菜の販売はありそのような意図で出ているかどうかは分からないし、次回から意図を組んで参加してほしいので主旨等を早めに委員で確認をして、進めていけたら良いのかなと思っています。

あと岩本委員にお聞きしたいことがありまして、西砂・一番町辺りの工業団ですが、どんな団体があるのですか。

岩元：1つには小さなベアリングを行っている会社や工場があったり、地震計の中に入れるような計測器の部品を作っている所もあり国内シェアを占めている会社も存在する。沢山ではないが、松中小学校の学校区の中にはある。

大橋：中学校の職場体験の受け皿として、取り入れている会社はありますか。受け皿等の繋がりがあると、その子の話を出してき易い。

岩元：専門職のような人が仕事を行っている場ですので、中学生を受け入れることはないと思います。

大橋：私たちが工業団内の会社と結び付くためには、どのような所にどんな形で顔を出し

ていったらいいか。

岩元：立川工業会が砂川地域を中心にして、名前は「立川工業会」ですが殆どが砂川地域を中心としているので、工業会にアプローチすることが一番早いと思います。

大橋：どのような繋がりや食い込んだら良いかと思ったので、中学生を職場体験で受け入れている先であれば入り易いと思った。また、ご紹介頂いて砂川の企業の人に学習館まつりの展示をして貰う為に話を持って行きたいし、展示をして貰わないといけないので、その場に顔出しをしながら趣旨説明してご協力をお願いします。

加藤：産業ではなくて違うかもしれないが、街を歩いていて思うがこの地域は介護施設が多い。産業まつりとして感覚は違うかもしれないが立川の養護施設がこの辺り近くで、多くの方々の耳に入っていると思うが興味があるが観点が違うかもしれません。

広瀬：進藤委員は専門ですがこの地域は介護施設が確かに多いので、その観点から行ってみてもいいと思う。

進藤：西砂カフェは認知症の方でも気軽に来れて楽しめる趣旨のカフェです。健常者も来てよくてその場で一緒に楽しめる場所です。

大橋：今、多く聞く介護施設のような場所が出ましたが「西砂カフェ」が色んな所で宣伝しているので、どんなものなのか気になっている。

広瀬：西砂辺りは小さな施設やデイサービスがとても多い。

岩元：気になるのが特養や小規模多機能施設でどう違うのかが分からない。

大橋：話を膨らませたら、包括の職員に委員が講義して貰うようになる。周らなくてもこのエリアにはどんな施設がいくつ位あると知っていることも必要なのではないかと思う。

知った上で講座として組み立てられるのかが気になるし、講座として必要なら高齢者向けに講座を行えたらいいし、委員が知らない部分が1つにはある。進藤委員、内部で色々気になっていることが多いのでよろしく願いいたします。

森：介護施設の上手な選び方の講座がいい。それこそ特養等の知識を知りたい。

石川：介護は福祉かもしれないしサービス産業と思うので、立派な産業と思う。これから先私も年を取っていった時に家の中で過ごせなくなったならば、手始めにどこに入って、最終的にどこに行つてどうなるのか知っておくことも知っておきたい。介護サービスも西砂の大事な産業の1つに上げられると思う。

大橋：介護と福祉も大事な産業の1つに上げられるので、形になるように進めていきましょう。

○ その他 新規に実施したい講座

石川：西砂地域の伝統的な行事、方言や民族的な体験を地運協ならではの講座として何かできたら良いのかなと思うがいかがでしょうか。

大橋：岩本委員に時間を作って頂き詰める中で、講座としてできるか検討したい。立川民

俗の会の檜山さんが十五夜の暗闇祭りの講座を学校で行っていてとても良かった。豊泉先生にお聞きしながら、このような講座もできるかどうか確認していきたい。コーディネーターと話を進める中で、今後、地域と伝統行事的なものを学校教育の中に、という活路がでてくるかもしれない。子どもが絵を描いた方言のかかるた遊びを通した活動も面白いのではと感じる。窓口は豊泉先生に頼るしかない。

広瀬：他館では大学と色々を行っている。西砂学習館では音楽に特化するが国立音楽大学が考えられる。交通費の問題はある。

岩本：国立音楽大学は立川市と提携している。

広瀬：西砂学習館は国立音楽大学とは付き合いがあるので、行うのには抵抗が少ないと思う。

大槁：実際学生に来て頂くとなると、交通費を支払う制度を作らないと難しい。国立音楽大学は西砂学習館と関わりがあるので、その中で講座を開くことは考えられる。

小笠原：国立音楽大学の卒業生。ジャズ科ができ革新的と見ていた。民族音楽の資料も保管している。教育音楽、幼児教育、リトミックがあるので、そこで例えば、大人向けだけではないことも考えられる。学生はコロナ禍で自習場所や演奏場所が少なくなっているので、活動の場所を求めていると感じる。

大槁：資金が少ないためにスクラップビルドを考えなければならない。資金が潤沢であれば、このエリアの方達に沢山のやりたいことがある。これが辛い。

広瀬：大学に演奏センターがある。そこが責任を持ち安くても一生懸命やってくれる。

大槁：毎年1回市内の小学6年生が国立音楽大学に行き、生の音楽体験をさせて頂いている。国立音楽大学が市内にあり立川市としてはありがたい。

広瀬：来週は錦学習館で音楽療法の講座がある。人気で定員になったとのこと。

大槁：皆の意向で講座として立ち上げようとなったら考えていく。

○ パパ・ママの西砂デビュー

今まで通り、「にしすな夜間塾」で兼ねることで良いか？

石川：「にしすな夜間塾」には子育て中の若い世代が参加するため、「パパ・ママの西砂デビュー」と兼ねるという事で良いか。

広瀬：「にしすな夜間塾」には子育てひろば利用の保護者は参加しているか。

石川：子育てひろばでは独自に講座を行っていたが中止にして、にしすな夜間塾を2回行うと引き継ぎを前係長から言われた。

大槁：就学前の講座は他でも色々で開催している。就学後である、小学校や中高へ行った保護者向け講座が少ないということで「にしすな夜間塾」を企画してきている。

・その他の活動について

○ フリースペース・にしすな

小笠原：今年度は活動ができなない。来年度はできるだけ行いたいと感じている。緩和されることを願うばかり。

○ 西砂地区文化会の事業の体験

石川：西砂地区文化会の事業に参加を続け、文化会と地運協の顔を繋いでいきたい。地元で色々活動する中で文化会を外すことはできない。出席できる委員で参加していきたい。

岩本：文化会にお伝えする。

大橋：顔を繋げて関係を作ることは大事。うどん作り、繭玉づくり等に参加していく。

○ 西砂学習館まつりへの参加

(展示・実行委員会の出席)

石川：地運協を代表して大橋会長に実行委員会に出席して頂いた。中止になったが第39回と同様に、地運協の活動報告のパネル設置をしたい。

大橋：コロナ禍の開催は感染症対策が重要な課題であると参加して感じた。今年も中止になると忘れられるのではと、参加者が危機感を感じていた。

3 協議、報告及び連絡事項

(1) 前回の議事内容の確認(議事録)

大橋：何かあれば事務局へ。

(2) 地域学校コーディネーターとの連携について(報告)

- ・第1回西砂川地区地域学校コーディネーター及び西砂学習館地域運営協議会委員の情報・意見交換会(1/28(木)19:00~21:00)は延期となりました。次回の開催は、コロナが落ち付いてからの開催?

大橋：コーディネーターと会議をする中で、同じベースで話が進められるのか、ずっと考えていた。学校現場に少なくとも参加している、現場を知っているコーディネーターと、全く知らない人が同じ会議で話し合いができるかと思った。そうすると最低限立川市の教育がどのようなものか、学校で取り組んでいる学校地域共同事業や地域での麦まき事業等、地域の人が関わりプログラムが組まれている状況がある程度知って会議に参加したほうが良いと思った。次回までに資料として提供したい。加藤さんが前に配って頂いた資料も大きな資料。

会議を進める時に初めから共同事業ありきみたいに進めると違うのではないかと考えている。どういう地域を作っていくか、どんな子どもに育ててほしいか、どんな学校であってほしいか、大きなところを皆で意見を出しながら見えてくるものが、学校と地域で作っていくものになっていったら良いのかなと思う。時間はかかるか

もしれないが、詰めていくと具体的なものが見えてくるかと思う。

増田：賛成です。

大橋：大きな会議なので初めから具体的な内容にいかないと思った。なぜそれが必要かを皆で詰めて、こんな活動があると地域と学校で子どもを育てることができるかもねと、意義付けが押さえられるような形で会議を進める必要があると思った。

加藤：私もこのような形で進めると思っていた。OKです。

大橋：生涯審に来てもらいレクチャーを受けても良いかと思ったが、コーディネーターは既に受けていると二重で失礼なので、自分達が目を通して、ある程度知っておくと良いのかなと思った。できるだけ情報を集めてご提示したい。

(3)「西一元気通信～西砂学習館便り～」発行に向けて（協議）

石川：配布資料参照。このようなイメージで作ってみた。発行日は令和3年3月3日にした。ゾロ目で縁起が良い。配布先は記載の通り。西砂学習館の印刷機のインクは黒と赤なので緑を使いたいと思っている。幸学習館のインクは緑と黒なので幸学習館で印刷する予定。今回はA4両面で印刷したい。これからの予定、今までの実施事業、地域のお話等を入れると情報量が多くなるので次回からはA3で考えている。文字の大きさは情報量によるが、沢山ある場合はポイントを小さくして必要な情報は入れるようにしたいと思う。次回の発行は6月位に出せばと思う。サマーイベントの予告を入れたい。場合によっては学習館祭りの報告もできる。6月以降の発行は9月位と、12月位で、年に4回発行できたらと思っている。忙しい中で、全部出せない場合もあるので、不定期とさせて頂いている。

小林：イメージキャラクターの胸に黄色が入っている。

大橋：印刷では出ないかと思う。

石川：リソグラフでは変換をかけて緑を赤にして調整するので、何色もは難しい。

森：裏面。実際には若い世代に来てほしかったので、「高齢者等」に「西砂の野仏を訪ねて」を入れると、年寄り向けの講座なのかとミスマッチを感じる。

小笠原：「大人向け」としたらどうか。「子育て世代」ではなくて、「保護者対象」。

石川：基本的には変わらないが4本の柱を3つに分け、「子ども向け」、「保護者対象」、「大人向け」に変更する。くくり自体は変わらないが表記を変更する。

大橋：発行は3月、6月、9月、12月の4回。広く地運協の活動を知って頂けたらと思う。初回はスペース的な部分もあるのでこのような感じになる。

広瀬：発行元は地運協ではなく西砂学習館で出すのか。学習館便りとする、サークルもはいる。学習館便りにした方が通りは良いかと思うが、一緒にやっているという風にした方が良い。

石川：発行・編集を西砂学習館運営協議会とし、共同で西砂学習館にする。サブタイトルも西砂学習館運営協議会便りにする。

大橋：内容によっては学習館祭りも入ることもあるが、メインは地運協の活動を知らせること。生涯審が方向性を出せて6館が学習館便りを出してくれると良いと思う。

広瀬：他市では公民館便りがある。立川市は「たち」はあるが、学習館便りがない。市

で統一して出すべきなので今回このお便りが出て良かった。

森：四角で囲った文面も変更が必要になる。地運協便りにするなら、メインは地運協だから学習館は一緒にやってくいとの方が統一感がある。

進藤：学習館便りにすると、学習館を使っている団体が団体募集に使わせてほしいという依頼もきてしまう。

石川：全学習館で作りたいという先の構想がある。その時はまた変更すればよい。

広瀬：メンバーの名前を入れたほうが良い。

大橋：何かあればメールで事務局へ。

(4) フリースペースについて (報告)

大橋：先ほどの連絡の通り。

(5) 各委員から報告及び連絡事項 (報告)

広瀬：アィムで多摩フレッシュコンクールの優秀な方のリサイタルがあった。去年2月に行う予定がつい最近あり行ってきた。アィムホールが新しくなりとても良かった。演奏者がコンサートができて良かったと涙を流しながら挨拶をしていた。久しぶりに沢山の人に聴いてもらうことができ嬉しかったと話していた。去年11月に幸学習館でクラシックのコンサートを行ったが、そこでも出演者が涙を流して挨拶をしていた。沢山の人たちに久しぶりに聴いてもらえて嬉しかったと話していた。このような小さなコンサートも大事にしなければと、自分たちがしていることも意味のあることなのだと改めて感じた。

進藤：「まちパ」を今年はオンラインで予定。参加が少なくなりそうだが、民生員向けにまずはZOOMの使い方講座を開催する。今後は地域の人に向けても考えている。

小笠原：すべての行事がストップしている。3月に児童館祭りを毎年実施している。地域の方にボランティアで入ってもらうことはできないが、子ども達向けに、定員を設けて3月21日「西砂子どもステーション」という形で遊びの提供を行う。ゲームコーナー、工作コーナーを考えている。東日本大震災から10年目ということで、震災復興支援を児童館の大きな柱で立てているが、初の試みで、子どもから参加費を100円頂き、被災地、コロナ医療従事者に赤十字を通して全額寄付をすることが決まった。今年の夏から西砂小でサマー学童がスタートするということが会議で発表された。児童館の事業ではないが、フードパントリーを実施している。寄付で賄っている。長く続けるには地域の協力が必須になる。

長谷川：青少健では1月17日に予定していた賀詞交歓会が中止になった。その後の予定は今のところ何もたっていない。運営委員会もない状況。4月になったら令和3年度の活動報告ができるかと思う。

俣本：岩本さんからの伝言。文化会の行事は全て中止になりました。

小林：コロナで家でじっとしていることが多い。幸いなことに近所の方が買い物を手伝ってくれる方がいる。お正月は久しぶりに息子の家に3泊した。料理の当番をしてきた。結構楽しく過ごせた。コロナにはかからないように頑張っていきたい。

森：西砂パソコン倶楽部では講座を実施した。健康を気遣ってお休みする方もいた。明

後日からは学習館でエクセル講座を行う。来月はパソコンスキルアップ講座ということでフォトムービーを作る予定。

以前横田基地の講座をお願いした小柴さんが12月でお亡くなりになったというお話を聞いた。

企画として、コロナでキャンプ関係やプチDIYが人気とテレビで見た。サマーイベントや夜間塾で取り入れられたらと思う。前からやったら良いと思っているのは、子どもの防災。子どもだけで留守番している時の自分の守り方、学校以外の防災の学びができたらと思う。防災頭巾やアイラップを使い、ちょっと変わったことをすると子どもも楽しみながら学べると思った。

俣本：増田さんからの伝言は、立川市民未来会議、財政を考える会での財政学習会はコロナ禍に関わらず予定通り開催。今回は2月27日に予定。今後はテーマを定め、関係者が幅広く協議し、課題解決に向けた活動をすすめていきます。

石川：2月5日風間杜夫落語会を何とか無事に開催することができた。学習館祭り実行委員会が2月10日に開かれ、正式に学習館まつりをやることが決まった。コロナがどうなるか全く見えないが、たとえ無観客でもビデオ撮影したり、展示は写真に撮り場合によってはフォトムービーにし、残したいと実行委員長と話した。

小笠原：フリースペースに通っていた子ども達から嬉しい報告が入ってきた。希望の短大や高校へ合格できたとのこと。

4 その他

○ 次回の地域学習館運営協議会の日程について

※次回開催；今回は、3月6日（土）午後1時30分から、西砂学習館
<配布資料>

- ・〈資料1〉令和2年度 西砂学習館事業予定
- ・〈資料2〉西砂学習館運営協議会 令和2年度地域活性化講座（案）
- ・西一元氣通信
- ・立川市地域学習館運営協議会報告書（第5期）
- ・西砂学習館まつり開催告知ポスター